

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人 ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる (ほおずきユニット)		
所在地	小樽市赤岩2丁目21番12号		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=0172000606-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年10月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に努めているが、今年度はコロナ禍のため外出ができなく施設内で散歩をしたり出来る事を行うようにしている。入居者のペースに合わせられるように変化を話し合っている。研修で理念の大切さを学んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域との交流は難しく出来ていない。広報誌を保育所に届ける等し、外遊びをしている園児たちに手を振る程度。定期訪問やはるカフェ、駄菓子屋等再開できるように準備をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、認知症について話す機会はなく実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域住民、包括支援センター、家族の方との会議は開催できていない。入居者と職員で行い、議事録を委員や家族に交付している。それを見て、意見があれば、お寄せいただきたいことを明記しているが、現在のところきてはいない。今後の感染状況にもよるが、参加できる方法を検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には、小樽市に連絡し、アドバイスをもらっている。今年度は実地指導もあり、様々な助言ももらうことができ、今後活かしていきたいと考えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、グループホーム内に委員会を設け、定期的に委員会を開き話し合っている。学習会に参加し正しく理解できるよう努めている。ベッド柵の位置や対応の仕方など職員間で話し合いをしている。夜間は職員一人の為に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、グループホーム内に委員会を設け、定期的に委員会を開き話し合っている。学習会があり学んでいる。不適切なケアにならないよう言葉遣いなど職員間で話し合っている。定期的に不適切ケアについてのアンケートを実施している		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学んでいるが、まだわからない部分も多い。新人職員はまだ学べていない。成年後見制度を利用する入居者もいるが、直接関わる事は今のところない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者中心に説明を行い、利用者や家族に聞かれた時には納得、理解できるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため面会できなく、聞く機会は殆どない。電話連絡する時にリーダーが聞いているが、十分に聞き取る事が出来ていない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者である理事長や総合施設長は、法人内研修等にて、意見交換の場になっている。今年度は、Zoomの研修となっている。今年度管理者が変わったが、介護課長時代からの日々の関わりを通して、意見や提案を聞く機会を設けている。今後は、個別面談なども行っていきたいと考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算、経験年数や勤務形態に応じている。今年度は、介護休業をとっている職員に在る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は年7～8回程度、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修はすべてZoomとなっている。外部研修は、必要なものみの参加の実施をしている。（管理者研修と防火管理者研修のみ）グループホーム内では、全体の学習会の他に経験年数や正職員など分けての開催も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は管理者が変わり、前管理者が築いてきた交流の継続を考えているが、新型コロナウイルス感染のため、難しい。同業者も同じ状態であることも考え、様々な工夫で取り組んでいききたいと考えている。		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍のため、事前訪問には管理者が行っている。困っている事や不安なを管理者が聞き、安心して過ごせるように入居時に本人から話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため、事前の家族と話のは管理者が行い、情報を聞いている。入居後に電話などで話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が話を聞き、その情報を聞きながらその時に必要な支援を考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝い等、その人の出来る事を把握し、出来る事や、やりたい事を一緒に行っている。その人の状況に応じて口腔ケアや更衣等自分で出来る事を任せている。話が出来ない方には表情や仕草から汲み取り、良い関係が築けるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が出来ないため家族との関わりをほとんど持てない。家族への手紙を送り、本人の状況を伝えている。家族との連絡はリーダーが中心に行い、家族の思いや昔の話等を聞いている。オンライン面会や窓越し等の面会で絆を保ちながら支えられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍で外出ができなく馴染みの場所には行っていない。食事や入浴、写真を見ている時などに思い出話を聞き、会話の中で好きな事や場所等を入れ楽しめるよう心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や一人一人の考え方や性格等を把握し、席の工夫や声掛け等を工夫している。表情や口調、態度等から不快にならないように考え職員間で話し合っている。		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に会う機会がほとんどなく関係は続けられていない。会った時などに話を聞き、必要なフォローをし、相談や支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望を聞いたり、会話出来ない方は表情や仕草等から把握するようにしている。カンファレンス等でも話し合い、本人本位になるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や会話の中から、生活環境等を把握するよう努めている。必要以上に部屋の物を処分したり動かししたりしないように、本人の選択を優先している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し、連絡ノート等で情報を共有しカンファレンスで話しあっている。眠気が強い時には休んだり、食事や飲み物等を無理に勧めない。日々の体調の変化等を職員間で伝達するようにしているが、現状にそぐわない対応になってしまう事もある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向はリーダー中心に聞いている。本人との会話の中で望んでいる事、出来る事や出来ない事等現状をカンファレンスで話し合いケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録に残し、特記事項は連絡ノートに書いたり申し送りを行っているが足りない事もある。記録等の内容を元にカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成し実践へ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため外出をとまう支援は出来ないが、個々の状況を考えて散歩に行ったり、行事等を考えて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	赤岩保育所やボランティアあかりさんとの交流等は、コロナ禍のため出来ていない。出張理美容を利用している程度である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する病院で受診、往診を受けている。看護師中心に日々の状況を主治医に伝え、関係を築き適切な医療を受けている。		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤している。日々の言動や体調の変化など気が付いたや本人が希望していることを伝え、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護職員が中心に病院関係と連絡をとり、情報交換を行い、家族とも相談しながら早期に退院できるよう話合ったり、関係を築いている。昨年入院した入居者はいなかった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段の会話の中から本人が最期のようにしたいタイミングがあれば聞くようにしている。家族、主治医、管理者や看護職員で話し合いを行い、それに基づいて話し合い、負担にならずに、その人らしい最期を送れるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり学習会で学んでいるがコロナ禍のためその機会も少なくなっている。実践する機会がなく、いざとなった時に活かせるのか、特に夜間帯は一人のため不安がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っている。自然災害訓練は停電を想定して行う等している。非常時の物品も揃っているが、いざ使用するとき用意できるか時間が経つにつれて不安はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格等を把握し、慣れ合いや命令口調にならないように気を付けている。「～しましょう」等話すようにし、トイレに必要以上に入らない等している。気を付けているが意にそぐわない対応になったり、口調が強くなる時がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望や困っている事等を聞くようにしている。新型コロナウイルスの影響で外出等、出来ない事もある。また自己決定出来ない方は職員間で話し合ったり、想いを推察し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしているが、時間や夜間帯一人の時などが希望に添えない時もある。嫌がる事は無理強いせず、意にそぐわない事を頼む時もあるが嫌に感じないように声掛けを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こまめに髪をセットしたり、洋服と一緒に選ぶなどしている。新型コロナウイルスの影響で外出する事がなく着物や浴衣を着る機会が無くお洒落をする機会は少なかった。		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し苦手な物を代替えて用意したり、好きなメニューを取り入れている。一人一人の状況に合わせた量で提供し、盛り付けを工夫している。食器拭きやテーブル拭き、米研ぎ、盛り付けや野菜の下ごしらえ等出来る事に応じて行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事や水分量を把握し、食べ方や残している物、咽などの食事時の状況を観察して話し合い、刻み食や食べやすい大きさにカットするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛けし口腔ケアを行っている。磨けているか確認するようにしているが確認できない時もある。口腔ウエティで口の中を清拭したり、舌ブラシを使用その人の状況に合わせて対応している。週2回義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残し、パターンを把握している。出来る限りトイレで排泄できるように足の筋力の向上などを心掛けている。立位が取れない方はベッド上でパット交換する事が多くなっている。パットやリハビリパンツ、テープ止めを使用する時には分析し、不快にならないように考慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳をはじめ、飲み物を多く摂ってもらうようにしている。野菜や海藻類をメニューに取り入れている。散歩に行っている方もいるが、運動への働きかけは十分ではない。毎日排便の有無を確認している。量や形状を確認しているが出来ない方もいる。下剤を調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、曜日は決まっているが、本人の体調や希望を考慮して変更する時もある。入浴中は安全に考慮しながら、楽しめるよう会話をしたり、柚子や入浴剤を使用する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその時々体調に応じて、眠気がある時には休んでもらったり、無理に起こしたりしないようにしている。季節や気温によって加湿器等を使用したり、寝具を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬に把握は出来ていない。変更があった時には用法などを確認し、その後の様子を確認している。一人一人に合わせた内服方法で、飲み込むまで見守りしている。		

グループホームはる（ほおずきユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が出来ないが、室内で出来る事を行っている。音楽鑑賞やスポーツ観戦等の好みのテレビを声掛けしている。書道やメニュー書き、お茶会、洗濯物畳み、盛り付け、ゴミ捨て等一人一人に合わせて行っている。好みや楽しめる事をカンファレンスで話し合い行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出は出来ない。2階廊下の散歩、中庭の水まき等で外の景色を味わってもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持している方や事務所で預かっている方もいる。自由に使えるようにしているが外出が出来ず使う機会がない。買い物を代行している。		
		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話がある方は自由に使用している。電話が無い方は希望時にユニットの電話を使用し掛け方が分からない時には手伝っている。お礼の電話を誘ったり、手紙を書くよう支援しているが機会は少ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に室温、気温を確認し、換気している。大きな音を立てない様に足音等に気を付けている。庭の花や習字を飾り、定期的に写真を貼るかえたり、掲示物を季節ごとに変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席は一人一人の状況や入居者同士の関係性を考えて不快にならないように決めている。その他の時間は自由に過ごせるようにしている。一人で落ち着いて新聞やテレビが見れるように考え誘導したり、気の合う入居者同士で過ごせるように誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持参し本人や家族が配置を決めている。本人の物を必要以上に変えないようにしているが安全のために配置を変更する事もある。写真や小物等を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで廊下やトイレ、浴室などに手すりがついている。入居者の状況に合わせて使用し安全に移動や移乗出来る。車椅子や歩行器等を貸出している。		